

講義コード	1495710000
講義名称	日中ビジネス論 <春>
科目英文名	Business between Japan and China
開講責任部署	経済学部 経済学科
代表ナンバリングコード	BUSA2400
単位数	2.0
時間割	春学期: 金曜日 3時限
講義開講時期	春学期

## 担当教員

氏名
大島 一二

授業形態	アクティブラーニング	プレゼンテーション	実務経験のある教員による授業①
			本講義の講師陣は、中国ビジネスに活発に関わっている現役実務家や機関の方々です。

アクティブラーニングの詳細	※受講人数により表記のとおり実施できない場合があります。	
	小レポート/小テスト	宿題(演習問題、e-learning等)

講義・演習概要	<p>この講義は、日本および大阪を代表する企業、機関の担当者がゲスト講師となるインテグレーション講座です。「日中ビジネスの最前線」をテーマとし、日本と中国・香港・台湾のビジネス事情について解説していただきます。</p> <p>講義は、大きく以下の内容からなっています。</p> <p>(1) 中国・香港・台湾への企業進出や現地での事業展開について</p> <p>(2) 日本と中国・香港・台湾それぞれの経済状況と両国・地域間の経済関係について</p> <p>(3) 中国・香港・台湾ビジネスの実際について</p> <p>本講義の講師陣は、中国・香港・台湾ビジネスに活発に関わっている現役実務家や機関の方々です。実務家の視点から生きた経済を語っていただくことにより、中国・香港・台湾の経済やビジネスに関心のある学生はもちろん、広く日本経済・業界に関心のある学生にも興味が持てる内容となるでしょう。</p>
学習(到達)目標	<p>講義は、毎回異なるテーマについて、第一線で活躍中ないし経験豊富な実務家をゲスト講師として進められます。本講義の目的は、日本経済と中国・香港・台湾経済との関わりを理解し、日本のそうした地域に対するビジネスへの関心を深めていくことです。また、各回の講義で述べられる事例から、ビジネスへの理解力を高め、業界研究を進めていくこともできると考えられます。</p>

## 講義・演習計画

回	内容
第1回	ガイダンスおよび大島一二「中国における食品安全問題」 講師日程と各回のテーマは確定次第あらためて連絡します。ただし、講師都合による日程変更時は別のテーマで行うこともあります。以下の日程は2025年度の予定です。
第2回	林 千野氏(双日)「中国ビジネスの心構え」
第3回	岡野寿彦氏(大阪経済法科大学)「中国のITビジネス」
第4回	澤村美喜氏(エコ・プロジェクト協同組合)「中国からの技能実習生の受け入れの実態と課題」
第5回	野崎由紀子氏(三井物産戦略研究所)「中国の農業・食品事業」
第6回	山田七絵(アジア経済研究所)「中国の食品ビジネス」
第7回	浜口夏帆(香港貿易発展局)「香港ビジネス」
第8回	竹内健氏(丸一鋼管)「企業のグローバル展開」
第9回	羽子田礼秀氏(ハウス食品)「ハウス食品の中国での事業展開」
第10回	高村幸典氏(諏訪大連会)「中国の自動車産業」
第11回	辻維周氏(岡山理科大学)「中国・台湾からの訪日観光と課題」

第12回	口野直隆氏（営業本部パートナーズ代表取締役）「日本の外食産業の中国、台湾への進出と課題」
第13回	森山たつを氏（スパイスアップ）「中国・香港・台湾への企業進出」
第14回	濱島敦博氏（桃山学院大学 ビジネスデザイン学部）「香港への食品輸出と課題」
第15回	齋藤幸則氏（テイジン）「中国での事業展開」、まとめ

## 成績評価の方法（割合）

「成績評価の方法（コメント）」についても合わせてご確認ください。

試験	0%
レポート	50%
その他	50%

成績評価の方法（コメント）	<p>対面授業を想定し、以下のように配点する。</p> <p>M-Portによるレポート（必修、1回、50点）、課題（5回各10点、50点）を基本とする。</p> <p>さらに講義への出席を促進するため、出席点30点（15回各2点）を加点する。</p> <p>合計130点となるが、評価は他の講義と同様に以下の基準である。</p> <p>59点以下D、60～69点C、70～79点B、80～89点A、90点～130点S。</p>
---------------	--

事前および事後学習の指示	日々の中国・香港・台湾の経済関係の報道に関心を持って下さい。
学習時間	事前学習時間：30時間 事後学習時間：30時間
キーワード	中国・香港・台湾経済、中国・香港・台湾ビジネス、日本企業の海外展開

講義コード	14D2310000
講義名称	経済情報処理論Ⅰ <春>
科目英文名	Management of Economic Information SystemsⅠ
開講責任部署	経済学部 経済学科
代表ナンバリングコード	ECON1510
単位数	2.0
時間割	春学期: 金曜日 3時限
講義開講時期	春学期

## 担当教員

氏名
櫻井 雄大

授業形態	講義	実務経験のある教員による授業① Web開発業務の経験がある教員が、技術的な点も含めたIT活用について講義します。
------	----	---

アクティブラーニングの詳細	※受講人数により表記のとおり実施できない場合があります。 小レポート/小テスト
---------------	--

講義・演習概要	「経済情報処理論Ⅰ」と「経済情報処理論Ⅱ」は同一年度に履修することをお勧めします。Ⅰで触れることができなかった部分はⅡで扱います。  この講義では、主に経済学部生が今後の学習/研究活動に応用できるように、情報処理の技術や背景などについて説明します。経済学に限らず、今日では情報処理は私たちの生活に無くてはならないものとなっています。人々の様々な活動を記録し、大量のデータを素早く正確に処理し、そこから得られる知見を様々な分野で活用するにあたり、「なぜ動くのか?」「どういうことができるのか、(現状では)できないのか?」「現在はどのように活用されているか?」「将来の応用可能性は?」といった点を押さえながら概説します。
学習(到達)目標	情報技術の基礎知識について学習し正しく理解することで、経済学およびその他社会科学の学習において情報技術を活用するための土台をつくり上げることを目標としています。

## 講義・演習計画

回	内容
第1回	イントロダクション(講義内容詳細説明、アンケート等)
第2回	情報の歴史(人は情報とどう向き合ってきたか)
第3回	情報社会の現状(インターネット、スマートフォンの台頭)
第4回	情報の数値化(デジタル化とはどういうことか、その利便性について)
第5回	コンピュータの歴史(登場から高機能化、汎用化、小型化へ)
第6回	コンピュータの仕組み1(部品の構成と役割)
第7回	コンピュータの仕組み2(基本ソフトウェアについて)
第8回	コンピュータの仕組み3(アプリケーションの概念)
第9回	ソフトウェア詳説1(データとプログラム)
第10回	ソフトウェア詳説2(プログラム言語の種類と特徴)
第11回	アルゴリズム概論(各種アルゴリズムの紹介)
第12回	コンピュータの仕組み4(ネットワークの仕組み)
第13回	インターネットとWWW
第14回	経済学、その他社会科学とコンピュータの関係
第15回	これまでの講義まとめ

## 成績評価の方法（割合）

「成績評価の方法（コメント）」についても合わせてご確認ください。

試験	100%
レポート	0%
その他	0%

成績評価の方法（コメント）	備考 不定期に実施するオンライン上の小テスト成績により評価します。
---------------	--------------------------------------

参考文献	「入門コンピューター科学 ITを支える技術と理論の基礎知識」 J.Glenn Brookshear（著），神林 靖（翻訳），長尾 高弘（翻訳） 株式会社 KADOKAWA,2017 ISBN-13:978-4048930543
事前および事後学習の指示	準備学習が必要な項目については、講義中に適宜指示します。 また、必ず講義ノートを取り、それを参考に講義中に話した項目について調べなおすことで復習してください。
学習時間	事前学習時間：30時間 事後学習時間：30時間
キーワード	情報,コンピュータ,Web,プログラミング,データベース,アルゴリズム

講義コード	16D1130000
講義名称	管理会計A <春>
科目英文名	Manegement Accounting A
開講責任部署	経営学部 経営学科
代表ナンバリングコード	ACCT2430
単位数	2.0
時間割	春学期: 金曜日 3時限
講義開講時期	春学期

## 担当教員

氏名
北田 真紀

授業形態	講義
------	----

アクティブラーニングの詳細	※受講人数により表記のとおり実施できない場合があります。 コメントシート	小レポート/小テスト
---------------	---	------------

講義・演習概要	<p>授業のテーマ ：管理会計に関する基礎知識の習得（1）</p> <p>授業の概要 ：企業は経営環境の変化に対応しながら、存続・成長するため、常に意思決定を行い最適な経営行動をしています。その判断基準のひとつに会計情報があります。会計情報は企業の経営行動の結果であり定量的に把握することができます。本講義では、この会計情報が経営管理において、どのように活用されているかということを理解するため、管理会計論を学修します。管理会計は、経営者が組織戦略の策定、および資源配分のために意思決定を行ったり、経営活動による業績を評価したりする際に必要となる会計情報を提供することを目的とする会計領域です。講義では、管理会計についてのさまざまなトピックについて、その基礎となる概念と計算手法を学修します。これらの基礎知識を体系的に修得したうえで、会計情報が経営管理において、どのように活用されているかについて、事例をもとに理解を深めます。</p>
学習（到達）目標	<p>【授業の到達目標】</p> <p>この授業を履修することにより、基本的な管理会計理論について、学修した範囲の計算手続きと理論的な背景を理解することができるようになります。日常的に企業経営における管理会計の機能と役割について考えることにより、専門知識の定着はもちろんながら、社会に出てから大いに役立つスキル（情報収集力・問題解決力・数理計算能力・論理的思考力など）が身に付きます。</p> <p>具体的には</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1.管理会計理論の学修した範囲について、説明することができるようになります。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・経営活動における意思決定と管理会計</li> <li>・経営戦略と管理会計</li> <li>・業績管理と管理会計</li> <li>・戦略的コスト・マネジメント</li> <li>・最近の研究トピックス</li> </ul> </li> <li>2.企業経営における管理会計情報の役割について説明することができるようになります。</li> <li>3.事例分析をとおして管理会計論についての理解を深め、発展的な議論が展開できるようになります。</li> </ol>

## 講義・演習計画

回	内容
第1回	【イントロダクション】 導入 管理会計とは
第2回	【管理会計のフレームワーク①】 管理会計を学習する意義 管理会計と財務会計の違い 管理会計と資源配分 管理会計を学ぶ意義、管理会計と財務会計の違い

第3回	<p>【管理会計のフレームワーク②】</p> <p>管理会計と意思決定支援との関係 管理会計と人間・組織との関係 管理会計の最近の課題 管理会計の役割や機能</p>
第4回	<p>【原価計算とコスト情報①】</p> <p>原価計算と原価計算制度、実際原価計算 原価計算の意義・原価計算の目的・原価計算制度 勘定連絡図の把握、費目別計算、部門別原価計算</p>
第5回	<p>【原価計算とコスト情報②】</p> <p>標準原価計算 戦略的コスト・マネジメント 実際原価計算、標準原価計算、戦略的コストマネジメント</p>
第6回	<p>【意思決定とコスト情報①】</p> <p>意思決定 特殊原価概念 意思決定と代替案の選択</p>
第7回	<p>【意思決定とコスト情報②】</p> <p>意思決定は何に基づいて行われているのか 損益分岐点分析</p>
第8回	<p>【ABCとABM①】</p> <p>活動基準原価計算（ABC）とは何か・有効性 について 伝統的な原価計算手法とABCの違い</p>
第9回	<p>【ABCとABM②】</p> <p>活動基準原価管理（ABM）とは何か・有効性 について 「活動」に着目した原価低減技法</p>
第10回	<p>【全社戦略のための管理会計①】</p> <p>企業戦略とは何か 戦略の分類 全社戦略と管理会計</p>
第11回	<p>【全社戦略のための管理会計②】</p> <p>垂直統合戦略 水平統合戦略 長期利益計画と戦略プログラム 垂直統合戦略と水平統合戦略</p>
第12回	<p>【戦略的投資計画のための管理会計①】</p> <p>投資意思決定のためのキャッシュ・フロー管理会計 資本コスト</p>
第13回	<p>【戦略的投資計画のための管理会計②】</p> <p>投資意思決定のためのキャッシュ・フロー管理会計 キャッシュ・フロー計算の多様性と特徴</p>
第14回	<p>【事業戦略のための管理会計①】</p> <p>事業戦略の策定プロセス SWOT分析</p>
第15回	<p>【事業戦略のための管理会計②】</p> <p>事業戦略から中長期戦略へ 「管理会計論Aのまとめと試験」</p>

## 成績評価の方法（割合）

「成績評価の方法（コメント）」についても合わせてご確認ください。

試験	70%
レポート	0%
その他	30%

中間試験30%、最終試験70%の合計得点より成績評価します。  
 中間試験：授業内容の理解度・定着度を確認するため、学期中間期に実施します。  
 最終試験：講義内容の定着度を測るため、全範囲から満遍なく、記述問題、計算問題を出题します。  
 （中間試験については返却後、フィードバックを行います）

成績評価の方法（コメント）

【成績評価の基準】

成績評価については、授業の到達目標について総合的に評価します。

秀：試験内容の理解度、習熟度、論述の書き方ともに、模範的であり、講義の内容を十分に理解している。

優：試験内容の理解度、習熟度、論述の書き方ともに、講義内容を良く理解できている。

良：試験内容の理解度、習熟度、論述の書き方ともに、講義内容を最低限理解できており、良い答案にしようという工夫が見られる。

可：試験内容の理解度、習熟度、論述の書き方ともに、講義内容を最低限理解できている。

テキスト

	著者	タイトル	教科書購入区分	ISBN	出版社	備考
1.	浅田孝幸・頼 誠・鈴木研一・中川優・佐々木郁子 著	管理会計・入門：戦略経営のためのマネジリアル・アカウンティング 第4版	大学オンライン販売	978-4-641-22096-6	有斐閣	

事前および事後学習の指示	<p>第1回：管理会計とはどのような学問か・管理会計を学ぶ意義について考えてみましょう。</p> <p>第2回：教科書第1章の第1・2・3節を読む。主に、管理会計と財務会計の違いについてまとめる。</p> <p>第3回：教科書第1章の第4・5・6・7節を読む。管理会計が企業経営における意思決定にどのように役立っているまとめる。</p> <p>第4回：教科書第2章の第1節を読む。原価計算の意義について理解を深める。</p> <p>第5回：教科書第2章の第2・3・4節を読む。原価計算手法として、実際原価計算・標準原価計算の内容をまとめる。</p> <p>第6回：教科書第5章を読む。教科書に挙げられている事例を復習し、意思決定とは何か、意思決定における会計情報の役割についてまとめる。</p> <p>第7回：教科書第3章の第1・2節を読む。損益分岐点分析を行うにあたって重要となる、損益分岐点とは何かについてまとめる。</p> <p>／教科書第3章の第2・3節を読む。損益分岐点について理解したうえで、利益目標の設定手順について説明し、重要ポイントをまとめる。</p> <p>第8回：教科書第4章の第1・2節を読む。「活動」について理解したうえで、伝統的な原価計算手法とABCの違いについてまとめる。</p> <p>第9回：教科書第4章の第3・4節を読む。「活動」とは何かを復習しながら、ABMの有効性についてまとめる。</p> <p>第10回：教科書第6章の第1・2・3節を読む。経営戦略について理解したうえで、企業の全社戦略と事業戦略についてまとめる。</p> <p>第11回：教科書第6章の第4・5節を読む。垂直統合戦略・水平統合戦略について用語を理解したうえで、企業における長期利益計画の策定と実行についてまとめる。</p> <p>第12回：教科書第8章を読む。投資意思決定のためのキャッシュ・フロー計算とは何か、まとめる。</p> <p>第13回：教科書第8章を読む。教科書で学修した4つのキャッシュ・フロー計算手法をまとめる。</p> <p>第14回：教科書第7章の第1・2・3節を読む。SWOT分析について理解し、全社戦略から事業戦略への展開について、市場の発展段階と戦略の選択についてまとめる。</p> <p>第15回：教科書第7章の第4・5・6節を読む。戦略ギャップとは何か、戦略の具体化についてまとめる。総復習を行う。</p>
学習時間	事前学習時間：30時間 事後学習時間：30時間
キーワード	会計学・管理会計・原価計算・経営戦略・意思決定・業績評価

講義コード	17E0620000
講義名称	英語の意味A <春>
科目英文名	Semantics of English A
開講責任部署	国際教養学部 英語・国際文化学科
代表ナンバリングコード	LING3420
単位数	2.0
時間割	春学期: 金曜日 3時限
講義開講時期	春学期

## 担当教員

氏名
森下 裕三

授業形態	講義
------	----

アクティブラーニングの詳細	※受講人数により表記のとおり実施できない場合があります。 小レポート/小テスト	宿題(演習問題、e-learning等)
---------------	--	----------------------

講義・演習概要	この授業では、英語の「意味」について、辞書に書いてある定義を覚えるのではなく、人はどのように理解し、どのように使っているのか、という視点から英語の語について考えていきます。英語の語は、文脈や話し手の視点によって意味の捉え方が変わり、ひとつの語が複数の意味をもつことも少なくありません。カテゴリー化やプロトタイプ、多義性、比喩やメトニミーといった考え方を通して、英語の意味がどのように広がり、つながっているのかを学びます。文法の説明はおこなわず、主に語について英語の意味を扱います。毎回、簡単な意味を分析する課題に取り組みながら、なぜこの語はこの意味で使われるのか、という問いに対して自分のことばで説明できるようになることを目標とします。
学習（到達）目標	この授業を通して、受講者は次のことができるようになることを目標とします。 1. 英語の語の意味について、辞書の定義だけでなく、使われ方や考え方の違いとして説明できるようになる 2. ひとつの英語の語に複数の意味がある理由について、多義性・比喩・メトニミーといった考え方をを使って説明できるようになる 3. 意味ははっきり決まっているものではなく連続的で広がりをもつものだというところを、具体例をもちいて説明できるようになる 4. 英語の意味について、何となくそう感じるのではなく、なぜそう理解されるのかをことばで説明する力を身につける

## 講義・演習計画

回	内容
第1回	オリエンテーション：英語の意味をどう扱うか
第2回	辞書の意味と使用の意味 - 定義と用例のずれ - 辞書は何を切り捨てているか
第3回	同一対象・異なる意味表現 - 客観的对象と言語化の違い
第4回	意味と視点 - 見方が意味を決める - 「どこを見ているか」の違い
第5回	範疇化：意味の境界はどこにあるか - カテゴリーの中心と周辺 - はっきり区切れない語の意味
第6回	プロトタイプ効果 - 典型例が意味理解を支配する - 辞書順と認知順の違い
第7回	多義性①：なぜ、ひとつの語に複数の意味があるのか - 多義性の基本構造 - 偶然の同音異義との違い
第8回	多義性②：意味ネットワークの考え方 - 中心義と派生義 - 放射状構造

第9回	<p>比喩①：抽象的意味の成立</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>- 時間・感情・評価の比喩</li> <li>- 具体的な経験から抽象概念へ</li> </ul>
第10回	<p>比喩②：日常英語に潜む概念メタファー</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>- 生きている比喩</li> <li>- 辞書に現れない意味の連関</li> </ul>
第11回	<p>メトニミー：関連性による意味</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>- 部分と全体</li> <li>- 行為と結果</li> </ul>
第12回	<p>意味拡張のパターン</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>- 比喩・メトニミーによる拡張</li> <li>- 拡張が起きやすい方向</li> </ul>
第13回	<p>意味変化①：意味はなぜ変わるのか</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>- 認知的・使用的要因</li> <li>- 評価のずれ</li> </ul>
第14回	<p>意味変化②：評価の一方性</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>- 悪化・改善</li> <li>- なぜ中立語は評価語になるか</li> </ul>
第15回	<p>評価性：語の意味に含まれる価値判断</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>- 中立みえる語の非中立性</li> <li>- 立場と意味</li> </ul>

## 成績評価の方法（割合）

「成績評価の方法（コメント）」についても合わせてご確認ください。

試験	50%
レポート	
その他	50%

成績評価の方法（コメント）	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 初回を除く毎回の授業で、その日の授業内容の理解度を確認するために、実際に語の意味を分析してもらった小テストを実施します。</li> <li>2. 初回を除く毎回の授業で、授業で扱った概念や用語について、その日の授業内容の理解度を確認するための授業課題が与えられます。</li> </ol>
---------------	--

参考文献	<p>谷口一美 (2006) 『まなびのエクササイズ 認知言語学』 ひつじ書房.</p> <p>谷口一美 (2003) 『認知意味論の新展開：メタファーとメトニミー』 研究社.</p> <p>アラン・クルーズ、片岡宏仁（訳）『言語における意味』 東京電機大学出版局.</p>
事前および事後学習の指示	<p>授業内容はすべて録画して、翌日までに WebClass で視聴できるように配信されます。授業で使ったスライドについても、同じように WebClass で配信されます。これらの資料を十分に活用して、授業課題に取り組んでください。</p>
学習時間	<p>事前学習時間：30時間 事後学習時間：30時間</p>
キーワード	<p>英語 意味 比喩 多義</p>